

☆名張市立赤目中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

赤目中学校区の保護者や地域住民は学校に協力的で、これまでも、農業体験や学習ボランティア、読み聞かせ等、地域住民が子どもを支援する取組が校区で位置づけられています。しかし、学力や学習意欲が低い児童生徒が見られ、不登校傾向の児童生徒も増えてきています。また、安心して自分らしさを出せなかったり、正しい価値観で行動できなかつたりする児童生徒も少なからず存在しています。

そこで、「子ども支援ネットワーク構築事業」を実施する中で、校区の子どもたちの課題を今一度見つめ直し、学校・地域・家庭が一体となった効果的な活動を創り出すことにより、子どもたちの学びを保障することを目指しました。

2 課題解決のための主な取組

(1) ほめほめ隊による学習支援

地域住民が、日々の授業や野菜作り、米作り、ぶどう作り、クラブ活動等の支援に入ってもらいました。継続的に支援に入ってもらうことで、学習に取り組みにくい子どもや、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちへの係わりを強めることができました。

また、「困ったら地域には支えてくれている人がいる」ことや、「自分たちは地域の中でもかけがえのない存在である」ことに気付くための地域学習も支援してもらっており、その結果として、子どもたちと地域の人々とのつながりが深まり、学習意欲の向上にもつながっていきました。



学習支援の様子

(2) 絵本の読み聞かせ「ぼぼんた」

中学校区の小学校では、学校ボランティア等と連携して、絵本等の読み聞かせに取り組みました。読み聞かせ「ぼぼんた」の活動から読み聞かせの楽しさを知った6年生児童が、自分たちで本を選び、1年生に読み聞かせを行いました。1年生担任から、「1年生が楽しく集中して聞いていること」や、「休み時間に、読んでもらった本を読み返している子もいる」等の声を聞かせてもらい、6年生の子どもたちは自己有用感を高めることができました。



読み聞かせの様子

(3) 太鼓学習

地元の太鼓集団「響」と6年生が交流し、「響」のメンバーの方から「差別をなくしていきたいという思いを込めて太鼓を打っている」という話を聞きました。「響」のメンバーの提案により、メンバーの方が作った曲を解放文化祭で一緒に太鼓演奏を行いました。解放文化祭では、児童館で活動している「じんけんくらぶ小友」のメンバーがリーダーシップを発揮して太鼓を打ちました。「小友」の活動に参加できていなかった地域の子どもが、「響」のメンバーの思いや「小友」のメンバーの姿に刺激を受け、「小友」の活動に参加し、解放文化祭当日も力強く太鼓を打っている姿を見ることができました。



解放文化祭の様子

◆実践を振り返って

赤目中学校区では、地域と連携・協働して活動を進めてきました。それが、地域住民が子どもたちの様子を知る機会となり、同時に子どもたちが地域の人と知り合う機会となりました。地域が学校に関わる機会が比較的多いことから、子どもたちは安心感をもって学校生活を送れています。また、不登校傾向の生徒が、地域住民の励ましによって、職場体験に休まず参加できたことや、障がいのある生徒が、市役所での職場体験を通して、市役所で働きたいという気持ちをもてた等、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちが自尊感情を高め、自分の将来像を描けるようになりました。

子ども支援ネットワークの取組により、子どもたちの自尊感情が高まるとともに、地域住民の自尊感情も高まっているように感じています。今後も教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの課題を共有し、より地域と協働したネットワークの充実、発展を図っていきたくと考えています。